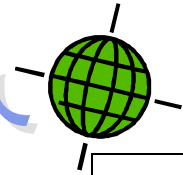


特定非営利活動法人 東大阪市民環境会議



74

東大阪市の自然・環境・まちづくりをみんなで考え、楽しく活動しよう！

自然エネルギーを活用しよう

2月16日に京都議定書は発効しましたが、その後、政府は、何をするでもなく縦割り行政の中で未だ右往左往しています。また、府県や市町村のほとんどは、その様子を見守っているだけで、独自に何をするでもありません。

しかし、そんな中でも、私たち市民にはできることがたくさんあります。

まず第一に、日常生活を省エネ、省資源の生活様式に変えることです。無駄な買い物を無くし、無駄な電気を使わないこと、買ったものはできるだけ長く使うことなどです。マータイさんが感動された「モッタイナイ」の精神をぜひ本当に復活させましょう。

また、少し大変ですが、太陽光や風力などを活用した自然エネルギー発電を活用しましょう。自然エネルギーを使えば、化石燃料からのCO2の発生を大幅に減少させることができます。個人ではなかなかできないという人も、グループで取り組む方法もあります。みんなで協力して、温暖化問題を解決しましょう。



3月のご案内

～ 映画「地球交響曲 第5番」を見ませんか～

日時 3月21日(月・祝)「京橋」駅12時50分集合

内容	「映画」(2時～4時)と平行して「レインスティック作り」の催しもあります。子供さんも楽しんでいただけます。
上映会場	京エコロジーセンター(京都市伏見区、京阪「藤ノ森」駅)
定員	10名(06-6723-0041へご連絡ください)
費用	交通費実費(1500円)のみ(映画は無料)

定例会のご案内 日時 3月26日(土)午後7時～9時

会場 喫茶ドレミファ TEL. 06-6782-6518

(近鉄奈良線「永和」駅北東3分、西保健所前)

《 情報コーナー 》

地球温暖化防止地域戦略シンポジウム実行委員会
全体会

日 時 3月20日(日) 午前10時より12時
会 場 東大阪市民会館 4階 第3会議室
内 容 地球温暖化防止シンポジウムの総括その他
参加費 無 料
連絡先 事務局 &Fax 06 - 6723 - 0041



自然エネルギー入門講座

第6回 バイオマスエネルギー

日 時 3月15日(火) 午後6時30分～
会 場 大阪府立環境情報センター Tel. 06 - 6972 - 1321
(JR環状線、地下鉄中央線、鶴見緑地線、「森ノ宮」駅)
講 師 気候ネットワーク：豊田陽介氏
里山倶楽部：大塚憲昭氏

最終回 21世紀は自然エネルギーの時代

日 時 4月9日(土) 午後1時30分から5時
会 場 大阪府社会福祉会館 (地下鉄谷町6丁目駅)
講 師 和田 武 (代表、立命館大学教授)

参加費 どちらも1000円 (同伴者は500円)
主 催 自然エネルギー市民の会 (PARE) E-Mail: Wind@pare.bnet.jp
Tel. 06 - 6910 - 6301、 Fax. 06 - 6910 - 6302

市民環境学習講座 大気の異変と脅威～地球温暖化～

日時と内容 第2回 3月11日(金) 「風力発電と温暖化防止」
第3回 3月18日(金) 「都市の高温化～ヒートアイランド現象」
講 師 兵庫県立大学環境人間学部教授 河野 仁氏
会 場 環境学習センター (生き生き地球館) 2階研修室
申込先 往復はがきに〒、住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望回を記入の上
〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番135号 大阪市立環境学習センター

東大阪市ごみを考える市民の会

日 時 3月10日(木) 午後6時30分～
会 場 東大阪市民会館 (掲示板をごらん下さい) 会 費 500円

3月12日(土) 「ひらおかグリーンガーデン」のフェスティバルに参加します! (別紙)
内容: 活動発表の展示 (2階)、飲み物とカレーの販売 (前庭)

みなさまへ・・・・・・・・・・
会報に掲載する記事を募集しています
・・・身近な情報をお寄せください
・・・・・・・・・・お待ちしております

NPO法人 東大阪市民環境会議
(会報発行場所)
〒577-0808 東大阪市横沼町2-7-20
Tel & Fax 06 - 6723 - 0041
メール: aan94670@syd.odn.ne.jp

先日、東大阪市民環境ネットワークの定例会で温暖化部会が企画した学習会を開催しましたのでご紹介します。

東大阪市民環境ネットワーク

《テーマ：市民共同発電所をつくろう!!》



日時 2月26日(土)
午前10時から12時
会場 東大阪市民会館
講師 豊田陽介氏

【プロフィール】

立命館大学社会学研究科卒
現在、NPO法人気候ネットワーク事務局長、NPO法人きょうとグリーンファンド理事、京都府・地域の自然エネルギー設備導入アドバイザー。

《学習会の主な内容》

化石燃料からのCO₂排出量と大気中のCO₂濃度の変化

- ・産業革命以後、化石燃料からのCO₂排出量、大気中のCO₂濃度の変化とも急激に増加
- ・日本のCO₂の90%以上がエネルギーをつくりだすために、化石燃料を使用することで排出されている。

温暖化防止のためには

- ・二酸化炭素濃度の早期安定化が必要
- ・450ppm以下で安定化させることが必要。(現在370ppm)
- ・そのためには2100年までに世界全体で60%、先進国は80~90%の削減が必要

持続可能なエネルギーシナリオ

- ・原子力発電の段階的廃止(既存の原発は30年で廃止し、新規の原発は建設しない)
- ・化石燃料のシフト。当面、石油、石炭から天然ガスへ転換
- ・再生可能エネルギーの促進。風力、太陽光、バイオエネルギーの促進

自然エネルギーとは？

- ・自然エネルギーとは「再生可能エネルギー」
- ・自然エネルギーの特徴
 - 自然循環から生まれるエネルギーを有効活用。
 - 枯渇しない資源である。
 - 大気汚染物質や温室効果ガスを排出しない。
 - 原子力発電のように放射性廃棄物による危険性もない。
 - 環境負荷が非常に少ないエネルギー源。
- ・自然エネルギーの普及を進めていくことが温暖化防止には有効である。



再生可能エネルギーの特徴

	再生可能エネルギー	化石燃料
エネルギー密度	小さい	大きい
存在場所	どこにでもある	かたよって存在している
再生時間	短時間で再生	再生に非常に長い期間が必要
資源量	無限	有限
発電規模	小規模・中規模	大規模
環境負荷	小さい	大きい
利用できる対象	市民にも利用可能	一部の組織が運用

世界の風力発電導入量（2002年、単位 MW）

ドイツ	12,001	イタリア	785
スペイン	4,830	オランダ	686
アメリカ	4,685	イギリス	552
デンマーク	2,880	中国	468
インド	1,702	日本	415

デンマークの事例

- ・デンマークでは風力発電の多くが住民により所有されている。1999年 85%
- ・地域重視、住民重視の自然エネルギーの普及
- ・自然エネルギーへの投資費用を回収できる優遇価格での電力買取制度の整備（92年）
- ・適正な政策により、住民による自然エネルギー普及を推進する結果につながる。

日本での太陽光発電導入実績

- ・1998年以降、世界第1位。
- ・導入実績の大半は家庭用（2000年317MWの60%）

市民共同発電所のうねり

- ・地域コミュニティに根ざした建物に、地域市民の協働出資により太陽光発電パネルを設置。
- ・1994年に第1号設置。以来、全国で50ヶ所以上になる。
- ・地域にあわせたさまざまなやり方
- ・市民協働発電所の設置方式 = 寄付方式、共同所有方式、団体所有方式、市民会社方式

市民共同発電所の事例きょうとグリーンファンド = おひさま発電所づくり

- ・地域に根ざした施設（寺院、教育施設など）に「おひさま発電所」を設置。これまでに7基設置
- ・寄付方式 = 一口3000円程度
地域のコミュニティ施設に太陽光発電を設置。
- ・環境教育を重視する。
- ・地域の核となる取り組みを育てる。
- ・他の地域へもモデルが広がっている。

自治体の取り組み事例

= 府民参加型自然エネルギー普及制度（京都府）

- ・京都府内に自然エネルギーの普及を図る制度
- ・経験とノウハウを有した人材（NPOメンバー）を派遣し、円滑な事業推進を支援する。

